



第6号

～ サレジオ会宣教ニュース ～

2009年6月11日

サレジオのミッションにたずさわる会員、若者への宣教師、友人の皆さん！

今や1500人近い会員とサレジオ家族のメンバーに届いているこのニュースレターを通して、皆さんにごあいさつします。多くの熱心な方たちの協力のおかげで、ニュースレターは”公式”言語（イタリア語、スペイン語、英語、ポルトガル語、フランス語、ポーランド語）だけでなく、ロシア語、日本語、韓国語、チェコ語、フラマン語でも広められています。皆さんに感謝します！ 2009年の間に、サレジオ家族のすべての共同体、グループに届けられたらと私たちは願っています。ニュースレター配布のため、どんな手伝いも歓迎します！

パウロ年の最後の月に、サレジオ会宣教活性化の大変重要な体験に目を向けたいと思います。私の夢の一つは、世界中のすべての養成支部、学校・教育共同体、ユースセンター、サレジオ会の受け持つ小教区に、宣教グループができることです。この点について、まだ意識のない管区もあります。

フィリッポ・リナルディの時代から、多くのサレジオ会事業の中に宣教グループが立ち上げられ、それらは7か国語で発行された雑誌Gioventu missionariaによって結ばれていました。1923 - 1967に同誌（イタリア語版）から生まれた宣教活性化のダイナミックスについて、2009年6月、英語で調査報告が出る予定です。これはアンソニー・パラッカ神父（India - Shillong, Matthias Institute; aparackal@sancharnet.in）の研究の実りです。すでにその一部をサレジオ・デジタル図書館 <http://sdl.sdb.org>で読むことができます。本号では、宣教師の体験を掲載します。ほかの多くの宣教師や宣教グループの体験も分かち合えるようになればと期待しています！

宣教顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父

本号の内容

- ・ 宣教顧問より
- ・ 新しい宣教師求む（ヨーロッパ）
- ・ 2009年6月サレジオ会の宣教の意向
- ・ ラテン・アメリカからアフリカへ
- ・ アフリカからオセアニアへ

サレジオ会宣教地、新しい宣教師求む……！（ヨーロッパ）

管区 - 国	必要な言語	状況、求められる宣教師の資質
EST ロシア、グルジア	ロシア語、地元の言語	かつてソ連に属していた国々、少ない会員、シベリアの事業
SLK スロバキア	スロバキア語、ブルガリア語、ルーマニア語	ロマの人々の中で働く宣教師、より効果的に仕事をこなす、人種的に多様な共同体を目指す管区
CEP チェコ共和国	ブルガリア語、ルーマニア語	ロマの人々の中で働く宣教師、より効果的に仕事をこなす、人種的に多様な共同体を目指す管区
GBR イギリス	英語	プロジェクト・ヨーロッパ-アフリカ系移民のため、小教区、学校。ヨーロッパ人会員
BEN ベルギー・オランダ	英語、フラマン語、オランダ語	プロジェクト・ヨーロッパ-移民のため。国際的な共同体を目指す。
AUS オーストリア	ドイツ語	プロジェクト・ヨーロッパ-移民のため

2009年6月 サレジオ会の宣教の意向

「アフリカ、マダガスカル、サレジオ会修練生が、貧しい人々、特に若者への真の愛と献身を通して、奉獻生活の召命において成熟しますように。」

イエスのみ心に捧げられたこの月、私たちはアフリカ大陸とマダガスカル、イエスにゆだねられたサレジオ会修練生（約100名）を思い起こします。貧しさの試練を経験している国や家庭の出身である修練生の人数は増え、世界の中でも最も貧しい若者たちすべてにとって、大きな希望のしるしになっています。このことは、サレジオ会がアフリカ・マダガスカル、最も貧しい国々に提供できる、最も貴重なカリスマの奉仕の一つです。

ラテン・アメリカからアフリカへ

私は飛行機でレシフェ（ブラジル）に到着しました。穏やかな気持ちで、たしかに幸せでした。飛行場で会員や友人たちに別れを告げた後でした。アフリカでの新しい冒険に向けて出発しようとしていたのです。しかし、飛行機が再び離陸を始め、ブラジルの大地から飛び立とうとすると、後にしようとしているすべてが思い出されてきました。ブラジル、働いた管区、取り組んだたくさんの仕事、東北地方で働いてきた18年の間に知り合った多くの若者や友人たち。

夜景が後方に遠くかすんでゆき、いろいろなことを思い出しながら、私は少し涙を流しました。自分は独り、もう一つの目的地に向かっていて！ そのとき、私は自分の選択の理由になくさめられました。宣教師になるということは、勇気を持って、イエスのために、イエスが指し示してくださった新しい道をたどって歩み出すため、すべてを後にするということなのです！

2009年1月31日、飛行機はアフリカの地に着陸しました。このドン・ボスコの祝日に、私はすぐに扶助者聖マリアとドン・ボスコの取り次ぎを願いました。自分のサレジオ会宣教師としての歩みが、祝福され、守られるように。

アンゴラの地での最初の日曜日、私はルアンダ郊外にあるムボンド・チャベの共同体の美しい典礼に参加しました……。ここに教会はなく、土地に小屋が立っているだけです。見る見るうちに、800人以上の人たちがどこからともなく集まってきました。人々は、貧しい、遠くの家から、砂埃の立つ道を、炎天下歩いて来ていましたが、皆、晴れ着を着て、朗らかでうれしそうでした。

ミサの間、特に歌や踊りから、生き生きとした雰囲気、会衆の皆が活発に典礼に参加しているのを感じました。私にとってそれは、さまざまな困難のただ中で生命力に満ち、成長している教会の発見でした。それは壁で出来た教会ではなく（小屋に壁はなく、椅子もありませんでした）、生きた教会、歌を歌い、自分たちの救いである神に希望をおく人々から成る教会です。

その日曜日の午後、サレジオ家族のさまざまなグループに所属する200人以上の人々、特にADMA（もちろんサレジオ会、サレジアン・シスターズ、協力者会も）のメンバーらが、聖パウロ教会（ルアンダの町中のサレジオ会が運営する小教区）の中庭に集まり、副管区長ジーノ・ファヴァーロ神父が紹介する総長によるストレンナ解説について、耳を傾けました。ここアンゴラでは、ドン・ボスコと同じ理想を目指して働き、若者に仕える大いなる運動になろうとするサレジオ家族の熱意を感じることができます！

アンゴラの宣教師 ルイジ・デ・リベラリ神父、アンゴラ



ナイロビで、アフリカ7管区のサレジオ会神学生たちと。

アフリカからオセアニアへ

2007年8月24日から、私は自分の国を離れ、宣教の十字架を受けため、ひと月、ローマに滞在し、英語を学ぶためナイロビ（ケニア）で一年を過ごしました。ナイロビ滞在は、観光のためではなく、宣教師としての召命において成長するための時間でした。人に忍耐を説くのは簡単です。しかし、実際にそれを実践するのは、時として難しいものです。私はそのことを体験し、良い宣教師として生きるために、忍耐がとても大事であることを知りました……。今、パプア・ニューギニアで若者たちと暮らすようになって7か月がたち、若者たちの中に喜んで迎えられることが自分の最大の喜びであることがわかりました。私はここで、確かに自分が本当に家族の中にいると感じています。そのことで、宣教師としての生活に堅忍する勇気を与えられます。

素朴で相手を温かく迎える若者たちですが、規準となる拠りどころ、自分たちの生き方を形づくるための模範を必要としています……。彼らの中での私の存在は、ほかでもなく、イエス・キリストの貧しいしもべです。ドン・ボスコ自身、死の時まで若者に仕えたなら、神の栄光と靈魂の救いのために、同じようにしない理由があるでしょうか。

私はキリストの愛に魅惑されたので、若者の中でドン・ボスコが歩んだ道にしたがってその愛をあかしたので宣教師になりました。アフリカ、特に私の祖国コンゴを後にすることは、簡単ではありませんでした。しかし、キリストと若者への愛に魅惑され、私は宣教の道に献身するのを、それ以上、遅らせることができなくなったのです。「地の果てまで行き、福音を告げ知らせなさい」！

パプア・ニューギニアで働く若いサレジオ会宣教師 マルティン・ゴイ
パプア・ニューギニアで働くアフリカ出身の若い宣教師は、
ほかにペドロ・サチトゥラ（アンゴラ）、アティス・ゲブレキダン（エチオピア）もいます。